

---

## 中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

---

2007年10月26日号

©2007年9月大豆市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年9月における大豆市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 1～8月の大豆輸入は安定的、関税引き下げにより大豆輸入コストは減少

2007年1～8月の中国の大豆輸入量は、前年同期比1.8%増の1,980.7万トン、同じく輸出量は同35.2%増の35.2万トンとなった。1～8月の中国の大豆油輸入量は、2.3倍増の52.3万トン、同じく大豆粕輸入量は96.8%減の2.1万トンとなった。

輸入大豆価格の高騰を受け、中国の大豆輸入は緩慢で、8月の輸入量は前月比3.0%減の292.7万トンとなった。国内の大豆生産量が減産予測である上、畜産業が急速に回復していることもあり、国内の大豆及び大豆粕価格は大幅に上昇している。このため、大豆の輸入を促進すべく、10月1日から3か月間、臨時に大豆の輸入関税が3%から1%に引き下げられた。現在の国際大豆価格から試算すると、税率の引き下げによって、国内の輸入大豆価格は1トン当たり60元前後下落するとみられている。

2 国内の大豆生産量と需要量のギャップは拡大、世界の大豆需給は逼迫

2007/08年度の国内大豆生産量は減少し、需要は引き続き増加するため、中国の大豆生産量が需要量を下回る幅が拡大し、輸入がさらに増加すると予測されている。大豆油及び大豆粕の新たな供給量（以下「新增供給量」）及び消費量は引き続き増加するものの、新增供給量が消費量を下回るため、期末在庫量は減少する。大豆粕市場は、前年度に供給が需要を上回ったことから、基本的にバランスしたものとなっている。

2007/08年度の世界の大豆生産量は、前年度比6.3%減の2.21億トンと予測されている。同じく消費量は4.6%増の2.34億トン、期末在庫量は20.2%減の5,035万トンと見積もられ、

世界の大豆需給は逼迫している。

### 3 国際大豆価格は史上最高水準に接近、国内大豆価格は着実に上昇

年初以降、米国の大豆減産や世界的なバイオディーゼル油需要の増加などの影響により、大豆及び大豆製品の国際価格は騰落を繰り返しつつも全体的に高騰を続け、2004年3月22日の1トン当たり387元という史上最高価格に迫りつつある。2007年9月21日までの米国シカゴ取引所における大豆先物価格指数は1トン当たり362ドルで、前月比17.8%高、前年同月比74.8%高となった。大豆油は同874.2ドルで、前月比11.2%高、前年同月比59%高となった。同じく大豆粕は307.8ドルで、前月比21.3%高、前年同月比64.3%高となった。

現在、東北地方では新収穫の大豆（新大豆）が少ないながら市場に出回るようになったものの、依然として旧年収穫の大豆の取り引きが主となっている。9月の国内大豆価格は緩やかに上昇した。畜産物価格が高騰するに従い、国内畜産業は急速に回復しており、大豆粕の需要が増加し、価格が大幅に上昇した。9月9日までの黒龍江省の搾油用大豆の買付価格は、1トン当たり3,454元で、前月比3.45%高、前年同月比49.7%高となった。山東地区の4級大豆油の工場出荷価格は同8,650元で、前月比0.6%高、前年同月比52.6%高となった。また、山東省の中等大豆粕の工場出荷価格は同3,387元で、前月比21.6%高、前年同月比57.7%高となった。

国際大豆価格及び海上輸送費が大幅に上昇したため、輸入大豆価格は急速に高騰し、輸入大豆と国産大豆の内外価格差が拡大した。9月下旬の山東省の輸入大豆の通関渡し価格（Duty Paid：C I F＋関税等）は、当地の国産大豆の仕入価格に比べ、1トン当たり200元前後高かった。

現在、国際大豆価格が歴史的な高水準に達するに従って、国産大豆価格も高騰している。大豆粕需要も依然として強いものの、国産新大豆の市場出回り量の増加及び関税の引き下げによる大豆輸入量の増加もあり、国内の大豆価格は今後、現在の価格ラインをやや上回る水準で推移すると予測されている。